

六斎念仏意想曲

元国立音楽大学教授 竹内道敬

【解説】

京都の吉祥院に「六斎念仏」という郷土芸能があり、その中に「四太鼓」という曲がある。一人の奏者が四つの太鼓を打って、それを何人かで演奏するというもの。それをヒントに、四人の奏者が一人で二つずつ太鼓を打つ形に変えた。これに三味線の手をつけて、当時としても新しいテクニカルな曲に仕上げたもの。作曲は昭和三十三年、作曲者大学三年在学中の処女作である。

三味線の調弦も今までにないもので、作曲者は「レミラ調」といつているが、三本の糸の関係を言い得て面白い。さらに古典の曲には絶対になかった試みとして、「普通ではないような」かけ声（作曲者のことば）をかけて演奏する。短い曲だが、演奏者にとってはかなりスリリングな曲となっている。

ちなみに「六斎念仏」というのは、六斎日（仏教で持戒して事を慎むべき悪日で、毎月八日、十四日、十五日、二十三日、二十九日、三十日）に行われる念仏踊りの意味。道空からはじまると伝える。彼岸・盆などに鉦・太鼓で囃しながら節をつけて唱える踊り念仏のこと。